

第1回 北区新庁舎新築基本設計専門家会議 概要

● 日時 令和6年2月15日（水）18：30～20：30

● 場所 北区役所第一庁舎3階庁議室（Web会議併用）

- 次第
 - 1 開会
 - 2 委員長、副委員長の選出
 - 3 委員長挨拶
 - 4 議事
 - （1）会議の運営について
 - （2）プロポーザル審査の振り返り
 - （3）設計者との意見交換
 - 5 閉会

●会議概要

1 開会

2 委員長、副委員長の選出

○委員長は委員間の互選により小野田委員に決定。また副委員長は小野田委員長の指名により吉良委員に決定した。

3 委員長挨拶

・プロポーザルにて設計者を選定したことにより、今後は発注者、設計者の間を取り持ちながら、プロジェクトを円滑に進めていきたいと考えている。

4 議事

（1）会議の運営について

（2）プロポーザル審査の振り返り

○事務局よりプロポーザル審査時の委員意見を共有した。

公開プレゼンテーション傍聴者へのアンケートでは公開プレゼンが有意義であったことや、提案については整理番号Cが多数の票を集めていたことが共有された。

（3）設計者との意見交換

○プロポーザル案の提案や検討の背景について模型を活用しながら設計者より説明。

○委員意見等

・平面計画は敷地の辺を引用した現代的な形状となっており、構造的にも合理性がある。基準階が大きいことから、コアが分散しないと成立しない場合がある。機械設備室・シャフトの計画に配慮する必要がある。

→設備シャフトや機械室を分散配置している。基準階全体を4つにゾーン分け、設備シャフトも分散することで搬送距離が長くないようにしている。奥のコアを職員専用としても使え、隣地への目隠しの意味も考慮している。

・吹抜けの光が足元に十分に入るか。足元が外部から見えることが魅力の案である。暗いと魅力が半減

する、シミュレーションは実施しているか。

→プロボ時に簡易シミュレーションを行っている。中央に加えて正面にも吹抜けを設けている。これは広場レベルに光を落とすことを意図している。今後、精度を上げたシミュレーションを実施して検討を進めていきたい。

- ・水害への取り組みが良いと感じている。防災への備えに関しては不明点を挙げてもらい、専門家より対応策を提示するやりとりをしていきたい。
- ・飛鳥山と繋がる歩行者デッキは、「緑の軸」、「生命の軸」と考えられる。平常時は植物や生き物等の生命の軸とも考えられる。
- ・足を動かしてのリサーチや選択肢を考えて結論を導く手法など、安心感があつた。設計段階でも、より良い選択肢を検討して欲しい。
- ・低層のランドスケープで3.5mのレベルまであがっていくルートについて、自然にあがっていくのが難しいと感じた。ジオシアターとプレイマウンテン等をシンプルにできるかも検討が必要と感じた。
- ・環境性能はスペックが重要となる為、よく検討して欲しい。ワンフロアが大きく、ペリメーターの影響が小さく、熱負荷・空調負荷は小さい。合理的な考え方が建物の骨格でなされている。屋根にも太陽光発電設備が設置される。地上の緑はヒートアイランド対策に一番効果的であり是非、残して欲しい。
- ・中庭の環境をどう考えるかは重要である。
- ・自治体の働き方を新しい方向にもっていくのは大変であるが、働き方の多様性を受け止め、新しい働き方をつくりだせそうと感じた。外部空間や低層部でも働くことができそうな案である。木陰や机のある「場」を作り出して欲しい。風、陽光等の自然を感じることで、セロトニンを体内生成し、クリエイティブな仕事ができる。気持ち良く働ける場所づくりを希望したい。
- ・オフィス空間ではフレキシビリティを持たせ、画一化することが風潮であるが、空間に個性をつくることは良いと考えている。ここでしかできない「替えがたい場所」とすることで多様性が生まれる。場を読む、使い方をどう引き継いでいくかが課題である。ガイドラインや仕組みのデザインも必要ではないかと思う。
- ・ワークスペースとしての外部空間をどのように考えているか。空気質も含めた、バイオフィジカルな働き方をどうデザインするかも重要である。
- ・可変性をどのように使う人に伝えていくかも重要である。
 - 模型をつかったワークショップを通して、職員に自分事として捉えてもらうことを考えている。
- ・民間本社施設等で培った、ノウハウを新庁舎計画にどう生かすか。
 - 案を提示することで、一石を投じ、リアクションを取り込み、また新しい案を提示する。それを模型・ワークショップ等、何回繰り返すかが重要と考えている。それにより使い手の意見が反映され、「私たちの庁舎」になっていく。使い手が生き生きするのがうれしい。関係者を盛り上げていきたい。
- ・DX部門と庁舎設計チームがうまくつながるように進められると良い。
- ・設計チームの思いを別の角度から区民に伝えることが重要と感じた。ワークショップ、ムーブメントづくりのノウハウを持たれていることを感じられた。

○委員意見等

- ・環境性能を誇れるものにして欲しい。

- ・建築家と組織事務所とのチームが良い面を引き出し合いながら良い作品をつくって欲しい。また瞬間風速ではつくれないので、クライアント側も含め良い関係を保って欲しい。
- ・どうシェイプアップするか、防災とシェイプアップをどう絡めるかが課題。防災への投資、区民への開き方、グラウンドレベルと防災面をうまく絡めていきたい。
- ・建築費高騰中であるが今後は暴落するかもしれない。クルーシカルなお金をはじきだすタイミングは波を見計らって欲しい。
- ・本委員は多様かつ優秀である。この会議は発注者と設計チーム間に立つ中立的スタンスで進めていきたい。・コストコントロールが重要である。飛鳥山との生命の道、生物の道、防災の道、デッキは防災の前提であり、スタンドアローンにしてはいけない。環境については解像度を上げた検討内容の評価頂きたい。

5 閉会